

事務事業評価シート (評価対象年度：令和 元 年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		道路維持管理事業				②事業番号		5102	
③事業類型		4. 施設等維持管理事業		④開始年度		一 年度		⑤終了予定年度	
⑥根拠法令等		○ 法令 ○ 条例 ○ 規則		要綱		計画等		その他 法令等の名称	
⑦実施手法		直営		全部委託 ○ 一部委託		補助・負担		その他	
⑧関連予算科目コード		款 7		項 2		目 3		細目 1	
⑨担当部名		⑩担当課名		道路課		会計		一般会計	
都市整備部									

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)		対象指標(対象者数を表す指標)		単位	
① 市管理道路		① 市管理道路(認定分)延長		Km	
② 市管理橋梁		② 橋梁数		橋	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)		活動指標(活動の量を表す指標)		単位	
道路法・市条例に基づき議会議決を受け、公示や周知を図り、申請書を適正に審査し、現場立会、協議、囑託登記等を行い、関係機関とも調整を行い、必要に応じて占用料等の納入を依頼する。また、緊急対応の修繕工事を業者へ発注を行い、また老朽化した橋梁などの調査に基づき、適正な処置を図り、管理上必要な道路台帳整備や開発協議、道路移管の手続き、道路で発生した損害賠償請求に備えた事務を行う。 5年に1度義務付けられた橋梁の法定点検を実施し、点検結果を基に必要な補修を行う。		① 占用申請件数		件	
		② 要望件数		件	
		③ 点検予定橋梁数		橋	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位	
認定路線等の維持補修を行い、また占用申請等の適正な審査を行う。 橋梁の適切な補修等を行い、持続的に安全性を確保する。		① 処理件数		件	
		② 処理件数		件	
		③ 点検橋梁数		橋	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)		総合計画体系上の位置付け			
適正な道路管理及び橋梁調査に基づく適切な処置を図り、安全に通行出来る状態を保つ。 その他の体系上の位置付け (5-2-1-3):老朽化した橋梁などの調査に基づき、適切な処理による長寿命化を図ることで合理的な維持管理を行う。		政策(章)		5 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち	
		施策大(節)		2 ネットワークで緊密に結ばれ、だれもが使いやすいまちをめざします	
		施策中		1 道路の整備	
		施策小		2 身近な道路の整備	

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	
対象指標①	市管理道路(認定分)延長	Km	213	213	213	—	—	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②	橋梁数	橋	83	83	83	84	—	
活動指標①	占用申請件数	件	350	344	485	—	—	
活動指標②	要望件数	件	88	123	121	—	—	R2年度から橋梁点検の2巡目を3年間実施する。
活動指標③	点検予定橋梁数	橋	31	0	0	21	—	
成果指標①	処理件数	件	350	344	485	—	—	
成果指標②	処理件数	件	82	86	98	—	—	事業費などの推移における特殊要因などの説明
成果指標③	点検橋梁数	橋	31	0	0	—	—	
事業費	投入人員	人	2.95	3.45	3.20	3.20	—	
	正職員	人	0.95	0.00	0.00	0.00	—	
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.25	0.00	—	
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.25	0.00	—	
事業費	人件費(投入人員*単価)	千円	25,279	27,969	25,095	24,678	—	H30、R1年度は、橋梁定期点検及び橋梁補修工事を行わないため、事業費が減になっている。その他特定財源については、水なす基金からの繰入金。
	直接事業費	千円	88,721	41,082	48,689	56,418	—	
	総事業費	千円	114,000	69,051	73,784	81,096	—	
		千円						
財源内訳	国庫支出金	千円		0	3,300	6,050	—	
	府支出金	千円	0	0	0	0	—	
	受益者負担金	千円	0	0	0	0	—	
	その他特定財源	千円	0	0	500	0	—	
	一般財源	千円	114,000	69,051	69,984	75,046	—	

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	道路法施行に伴い道路管理者の責務が明確になったため。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	道路管理物件について、老朽化が進行している状況である。今後、安全面を重視した維持管理手法の確立が求められる。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価

A

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	市民生活を守る道路網であるため、安全かつ適正な道路管理は不可欠である。
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	道路は不特定多数の方が必要とするものであり、市の財産として適正な管理をする必要がある。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	高まる市民ニーズに応えていくには適正であるとする。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	道路は市民生活に密着しており、道路管理者として休止・廃止は出来ない。

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価

B

⑤期待どりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	要望への対応など、事後保全的な対応で適切に維持管理ができています。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)	ア. ある イ. ない	予防保全的な維持管理手法を確立し、成果向上へ繋げていく必要がある。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	—

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価

B

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費＋人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	修繕業務の発注手法の工夫や新たな修繕工法の採用など、コスト削減手法を検討する。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	—

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A: 現状のまま事業を進めることが適当 B: 課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C: 課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	B	道路管理者としての責務がある以上事業を進めるのが妥当である。今後、橋梁の補修等、予防保全的に維持管理をする必要がある。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

イ	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 ↓ (年まで) エ. 休止 ↓ (年から) オ. 廃止 ↓ (年から)	<今後の展開方針> a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)
	a b	
①改革、改善の具体案、実施年度など		日常的維持管理と共に、計画に沿った橋梁等の予防保全的維持管理に集中的なコスト投入が必要である。
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策		国庫補助等の財源確保が課題である。